dataiku
The Universal AI Platform™

第4回
DataHaiker Connect

2025/5/23



©2025 DATAIKU INC. [DATAIKU CONFIDENTIAL]

Dataiku ニューヨークイベント ご報告

©2025 DATAIKU INC.

Everyday AI Conference in New York

日時　：
2025年4月24日(木)
ご参加者 約500名
会場：Spring Studios
　　50 Varick St, New York, NY 10013



価値あるAIエージェント展開戦略から、非効率かつ混乱したAI展開の制御、差別化できるデータとAI 戦略の構築についてDatakuの最新情報及びグローバルでの事例など、多くの情報を得られる機会です。

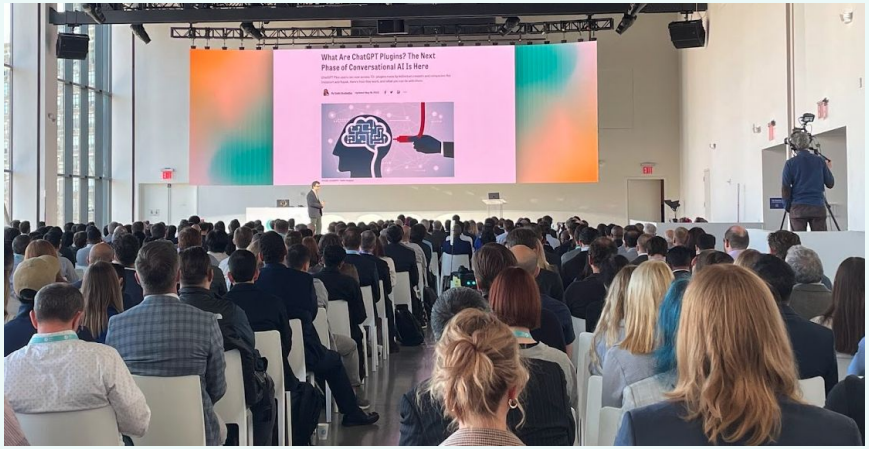
登壇企業

HARVARD LAW SCHOOL　ThermoFisher SCIENTIFIC　Takeda　bread financial™

[イベントサイト]

©2025 DATAIKU INC.

現地の様子









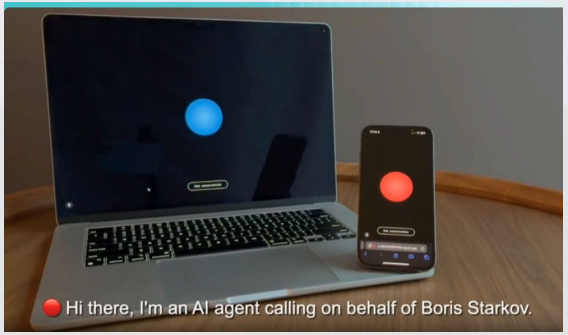


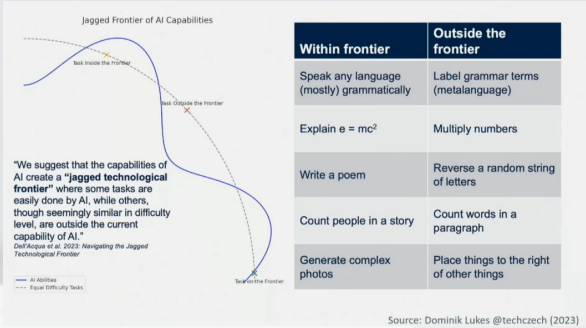
©2025 DATAIKU

Keeping Buoyant in the AI Ocean

Speaker: Jonathan Zittrain ハーバード大学

- **AIはアスベストのように**：気づかぬうちに社会全体に浸透。どこに使われているか分かりにくく、制御も難しい。
- **AIの定義**：人間がしていたことをAIができるようになったら、それはAI。
- **機械学習の仕組み**：大量の例（例：カエル画像）からパターンを学習。理由の説明が難しい（解釈性の壁）。
- **生成AIの力と課題**：言葉の関係性を学び、創造性を発揮。一方で「もっともらしさ”重視」により誤情報も（ハルシネーション）。
- **制御と倫理**：RLHFやプロンプト制御で誤回答を減らすが、ユーザーとの“綱引き”が続く。
- **次の波＝エージェントAI**：自律的に判断・行動するAIが社会に進出中（例：営業、医療）。
- **今後に向けて**：AI導入の棚卸し、モデル依存の見直し、柔軟な姿勢での活用がカギとなる。







このセッションでは AIによるポッドキャストを使っていたので、セッションの内容自体を日本語でのポッドキャスト化してみました

NotebookLMによるポッドキャスト

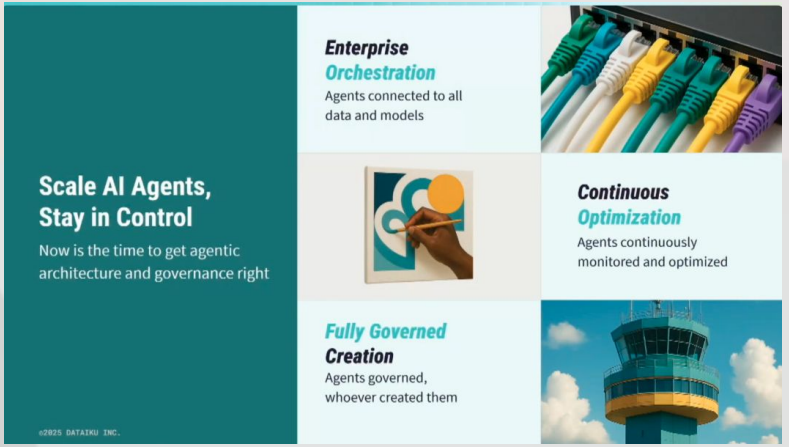
Keynote - Message from Dataiku

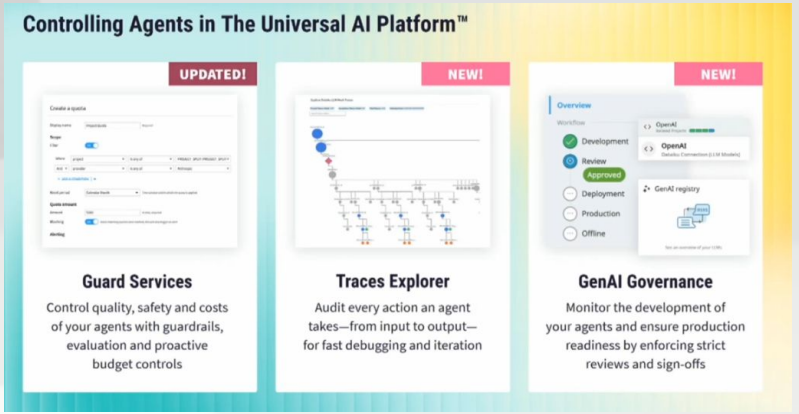
AIエージェント技術の導入における課題と解決

- 課題
  - AIがビジネスにどう役立つのか理解できない、既存のシステムとの連携が難しい、セキュリティ上の懸念、テスト体制の不備、責任の所在の不明確さなど
- 課題克服のための原則:
  - 適切なオーケストレーション:
    - 集中管理されたルーティング、接続、セキュリティ、制御の仕組みが必要。
  - 継続的な最適化
    - テストとイノベーションを計画段階から組み込む必要がある。
    - バランスの取れたアプローチ: スピード重視だけでなく、エージェントの作成と役割の理解を深める必要がある。

Agent を制御する Dataiku AI Universal Platform

Dataikuは、単にAIを導入するだけでなく、どう制御し、運用し、評価するかという点でも実践的な機能を提供している。
「ブラックボックスではないAI」を目指し、安全性・透明性・信頼性を重視した仕組みが整備されている。





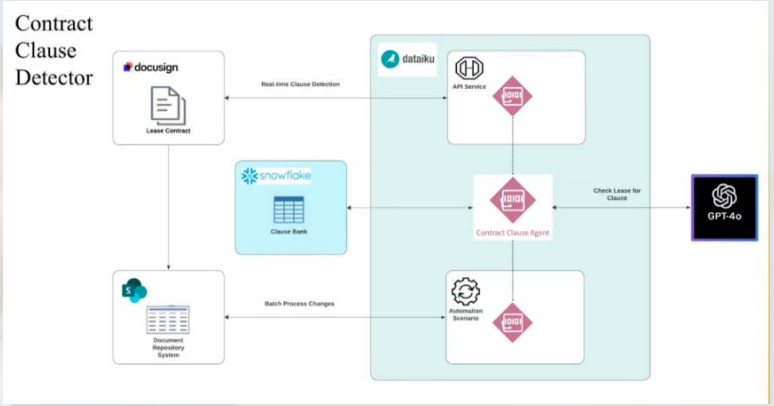
Keynote - Prologis事例　エージェント利用

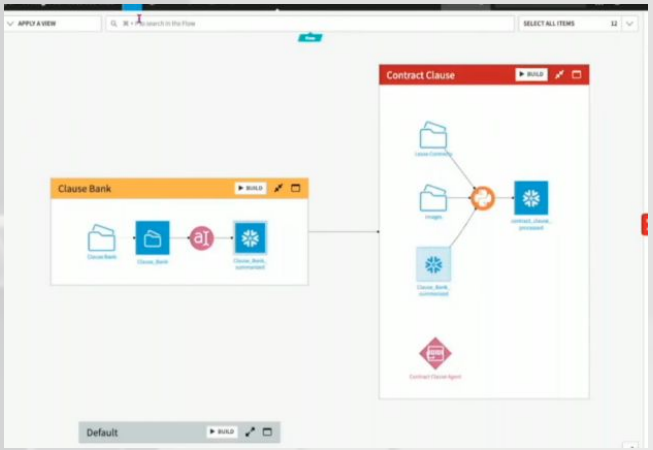
Speaker： Luke Slotwinski, VP Data & Analytics, Prologis

企業概要
Prologisは世界最大の物流不動産会社

リース契約分析の革新
課題：
リース契約は50～100ページに及ぶ複雑な法的文書
各契約に重要な条項（物件へのアクセス権、データ権利など）が含まれているか確認する必要あり
従来は法務チームとリース担当者が各契約を 5～8回読む必要があった
ソリューション進化：
最初はチャットボットを開発：契約をアップロードし、 AIが重要条項の有無を確認
その後、チャットボットを「エージェント」にスケールアップ：システムのフローに統合
実装方法：
DocSign（電子署名プラットフォーム）との連携
リースがアップロードされると自動的にエージェントが起動
エージェントが契約書を読み、重要条項の確認を実施
結果をDocSignに返し「署名可能」または「人間の確認が必要」と判断

13,000件のリースに対する全条項をわずか数分でチェック可能に





Keynote - Macquarie事例　統制を踏まえた導入

Speaker: John Snow COO, Macquarie

企業概要
オーストラリアに本拠を置くグローバル金融グループ。インフラ投資で世界有数、北米のエネルギー市場でも主要プレイヤー、母国オーストラリアではNo.1のデジタルバンク。社内では、トレーダーのための気象データ分析から、規制対応レポート作成まで、多様なデータニーズがある。

DataikuとLLM導入の経緯と目的

1. 民主化されたアクセス環境を実現したい
2. 迅速なデータ提供
3. 加速するためのガバナンス
    a. ガバナンスは「ブレーキ」ではなく、「安全にスピードを出せる設計」として重要視。
    b. コントロールやポリシーが Dataiku上に組み込まれていることで、毎回ゼロから設計せずに済む。

生成AI導入の初期段階と今後の展望
現在は生成AI（GenAI）活用の設計段階（Design phase）。社内では、今後すべての社員がエージェントを作りたがる未来が見えており、

- 再利用性
- ベストプラクティスの共有
- 統制の効いた運用

を実現するプラットフォームが不可欠。Dataikuは、この“AIエージェントの急増”に備えるための基盤として非常に重要。



©2025 Dataiku Inc. | dataiku.com | contact@dataiku.com |